

—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

トルコ：クルド情勢 (PKK 関連動向)

(7月21日付現地紙)

7月21日付現地各報道がクルド情勢に関して報じている。その概要は以下のとおり。

1. 平和民主党 (BDP) 議員団の第8次イムラル島訪問

- (1) BDP のセラハッティン・デミルタシュ共同党首およびベルヴィン・ブルダン議員は21日、イムラル島刑務所を訪問し、同刑務所に収監中のクルド労働者党 (PKK) のオジャラン指導者と面談した。
- (2) 訪問後、デミルタシュ共同党首とブルダン議員は記者会見を開き、オジャラン指導者のメッセージを読み上げた。その概要は以下のとおり。
 - ア 自分 (オジャラン) は、「平和プロセス」の「第二段階 (※)」における進展を9月初めまでに達成し、「第三段階 (※)」の議論へと進むことを望んでいる。「第三段階」での議論は、我々が「正常化」と呼んでいるものである。自分は望みを失っていない。
(※「第二段階」と「第三段階」の具体的な内容は明らかになっていないが、「第二段階」は、憲法・対テロ法の改正等を含む法的な整備、クルド共同体連合 (KCK) に対する捜査により拘束されている者の釈放等についての交渉の段階であり、「第三段階」がオジャラン指導者の釈放についての交渉の段階であると見られている。)
 - イ 政府は「平和プロセス」を促進するため、速やかに具体的な措置をとるべきである。その中において、自分の自由な意思表明の手段も尊重されるべきである。トルコが炎に包まれているとき、自分が「平和プロセス」に向けた自分の役割を十全に果たせるように措置がとられることは当然である。
 - ウ 自分は、もしイムラル島での記者会見を通じて公衆に直接自分の考えを伝える機会が得られれば、「平和プロセス」を前進させるために重要な貢献が出来るだろう。このような簡単な措置について政府はためらうべきではない。

評価

今回の平和民主党 (BDP) 議員団によるイムラル島訪問には、体調が悪化していると噂されるオジャラン指導者の早期釈放を政府に求める意味も含まれると考えられる。PKK との本当の意味での「平和プロセス」を成功させる意図があるとすれば、政府側にも譲歩が必要だろう。他方、PKK との和解については依然として国内での反発が根強く、もう少し時間がかかるとの見方もあり、一筋縄ではいかないのが現状である。

(評価：金子研究員)